

栗 東 市

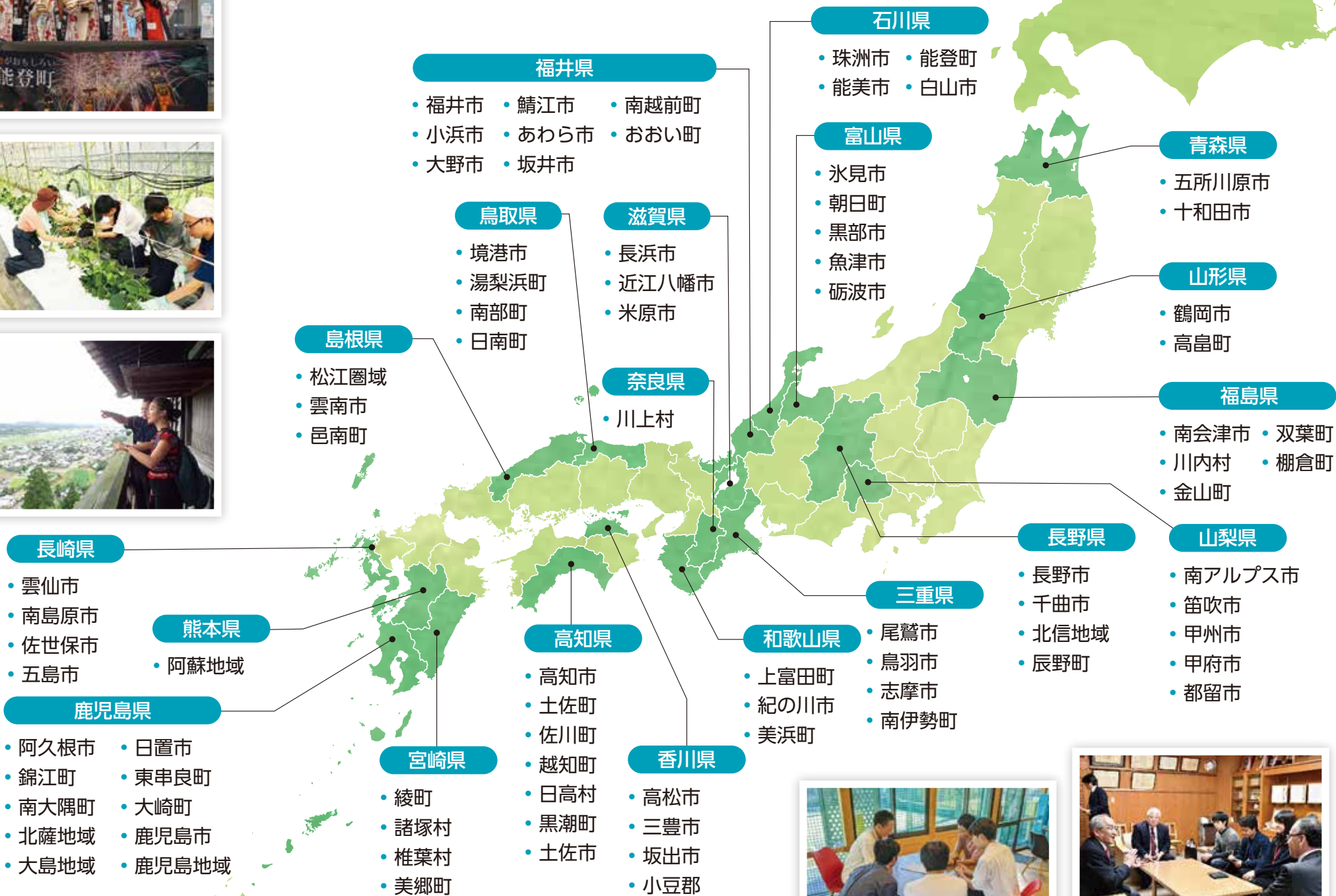
提供年月日	令和 8 年 7 月 3 日
担 当 部 署	環境経済部 商工観光労政課

資料提供

タ イ ト ル (事業名等)	東大生が栗東市の地域課題解決に向けて活動します
概 要	【内 容】 東京大学の「フィールドスタディ型政策協働プログラム (FS)」において、同大学の学部学生・大学院生計 3 名が栗東市で活動することが決定しました。 本プログラムは、地方自治体が抱える課題に対し、学生が 1 年間かけて調査や現地活動を行い、解決へのアプローチを提案する取り組みです。2017 年の開始以来、毎年多くの学生が熱意を持って参加しています。(※栗東市が参画するのは今年度が初めて) 今回参加する 3 名の学生（理学部 3 年、工学部 3 年、人文社会系研究科修士課程 1 年）は、9 月 2 5 日(金)から 2 8 日(月)までの 4 日間、栗東市内で第一回現地活動を行います。 滞在期間中は、(一社)栗東市観光協会のアテンドのもと、市内の視察・散策を行うほか、市職員や地域で活動する NPO 法人との意見交換会などを予定しています。 【問 合 せ】 (一社)栗東市観光協会 電話：077-551-0126 FAX：077-551-6158 e-mail：ritto-kankokyokai@io.ocn.ne.jp ホームページ：https://www.ritto-kanko.com/
資料の有無	あり（リーフレット）

フィールドスタディ型政策協働プログラム (FS)

これまでの活動地域



FSの取り組み

- 地方創生・社会の仕組み作り
- 伝統工芸・特産品を活かした地域振興策
- 地域ブランド発信策
- ツーリズム提案・検証
- 空き家・空き店舗・古民家・廃校の活用
- 移住促進策
- 住民サービス・交通政策
- 関係人口増加策
- 里山集落の持続性
- 文化の保存・継承・活用
- SNSの活用
- 市民大学の設立
- 図書館の利活用
- 農地再生
- 住民の健康管理・対策

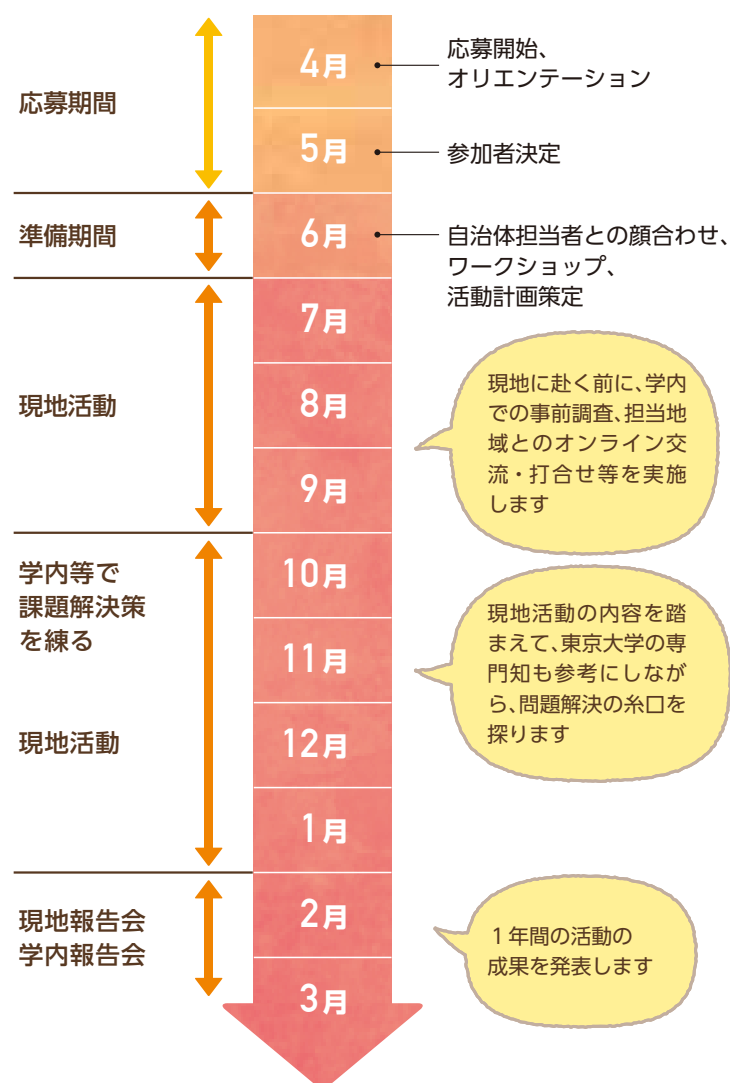
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2020年度に実施したオンラインツール活用プログラム「オンライン形式によるFS地域交流会」で活動した地域を含む。
※2024年度の活動予定地域を含む。(2024.4.1時点)

プログラム概要

地域課題解決に向けて、東京大学の学部学生・大学院生が解決の道筋を提案することを目指して活動します。学生は、地域から提示された課題に対して、チームで協力しながら活動を進めます。地域の現場では多様な関係者との対話や関係先の訪問等を通じて、現状について身をもって体験・把握し、時には学内の知見を有する教職員の協力を得ながら、課題解決の糸口を探ります。事前調査、現地活動、事後調査を通じて、一年をかけて解決の道筋の提案を行います。

2017年度のプログラム開始以降、毎年多くの学生が活動に参加しています。

活動スケジュールの目安



※10月～1月、2月にもワークショップを各1回開催します。

参加学生の声

課題

過疎地域におけるシェアカーを活用した交通手段導入の提案

3期生(2019年度) 鹿児島県錦江町担当 深谷 麻衣

2019年度に3期生として、鹿児島県錦江町にて、宿利原地域の足を考えることをテーマに活動を行いました。

宿利原地域は、活動当時の高齢化率が約55%の過疎地域です。地域内には、スーパーや病院はなく、地域内を走るコミュニティバスは週1便でした。現地活動前に、自治体の方から地域の実情を聞き、このような地域で生活ができるのかと、現地活動を不安に感じたことを鮮明に覚えております。

活動前の不安とは裏腹に、現地活動は、今まで経験したことのないことの数々で、大変濃密な時間となりました。グラウンドゴルフ大会や納涼祭に参加し、地域の方々に顔を覚えていただいたのは良い思い出です。また、地域サロンへの参加、コミュニティバスへの同乗、移動販売車や青パト隊(地域の見守り活動)への同行などを通じて、地域の暮らしを、身をもって感じられました。

これらの経験は、自身の進路を考えるきっかけになったと感じています。また、FSの活動を終了後に、錦江町内外で、地域の皆様とお会いする機会もありました。FSの活動を通じて、応援したい地域が増えたこと、「ひと」に会う旅ができるようになったことが、FSに参加してよかったと感じる点の一つです。



課題

諸塚村農林業ビジネス・インターンシップ

7期生(2023年度) 宮崎県諸塚村担当 山中 弘毅

2023年度に7期生として、宮崎県諸塚村の地域活性化を目的に一年間の活動を行いました。生まれてから首都圏で生活していた私にとって、人口わずか1,300人の村に足を運び、初めて触れる村独自の文化や生活、産業の実態を学ぶことはとても新鮮で、貴重な経験となりました。

今回は取り組むべき課題を指定されなかったため、村の現状を私たちの視点で捉え、施策を考えていく難しさを初めは感じました。そこで、現地活動では多くの方とお祭りや集会などで直接交流することを意識するとともに、実際に林業の山仕事をしたり、伝統として継承されている諸塚神楽を見学したりする機会を大切にしました。結果として、外部者という立場でありながら、村の未来を自分事化して真剣に考え、有効な施策提言につなげることができたと考えています。

通常FS是一年間の活動ですが、各地域と大学の関係を一期で絶やすことなく、持続的なものとしていくことを重視しています。一年間の活動終了後には、五月祭での諸塚村の特産品の販売や、村の小学生の大学見学の支援などを行いました。一期一会で出会い、一年間お世話になった自治体のため、「活動」はこれからも続きます。



課題

探究まなび場「つるラボ」において実施する地域資源を活用した特色ある教育に向けた探究プログラムの検討

7期生(2023年度) 山梨県都留市担当 竹内 彩乃

2023年度に7期生として、山梨県都留市のつるラボにおける探究型学習の提案という課題に取り組みしました。現地活動は3度行い、一回目は都留市各所を巡って都留市のことを知り、二回目は探究学習イベントを開催、三回目は現地報告会を行いました。

第一回現地活動では、都留市の歴史や豊かな自然、教育に対する姿勢などを学ばせていただきました。その後第二回現地活動を含め、2度探究型学習イベントを開催しました。イベントを立案する中で、理想を現実化する難しさを感じましたが、正解の見えない中で最善を尽くした経験は、自分自身を成長させてくれました。

FS活動を通じ、地域の方が抱える課題に対する解像度が上がりました。学生として至らぬ点も多くあったとは思いますが、都留市の方は常に暖かく見守ってくださり、私たちはいつでも支えられていたように感じています。このような支えのもとに、学生として自分の足で駆け回って地域の方に貢献しようと努力できたことは自分にとってかけがえのない経験になりました。今後も学生が地方に関心を持ち、自ら課題の解決に向かって探究する活動ができる場が提供され続けることを願っています。



フィールドスタディ型政策協働プログラム(FS)

問い合わせ先

東京大学本部社会連携推進課
体験活動推進チーム
〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-2541/2542

Eメール fs-office.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



Webサイトはこちら

ご寄付のお願い

体験活動支援基金

<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt84>

キャンパス内での学びだけでなく、さらに、自ら学びの機会を国内外に求めようとする学生たちの意欲をご理解いただき、温かいお力添えをお願いいたします。



Webサイトはこちら